

日本道德教育方法学会第30回研究発表大会プログラム

期 日 2024年6月8日(土)、9日(日)

会 場 大阪教育大学柏原キャンパス共通講義棟(A棟)(〒582-8582 大阪府柏原市旭ヶ丘4-698-1)

大会準備委員会委員長 金光 靖樹(大阪教育大学)

主 催 日本道德教育方法学会

大会参加費 2,000円・・・会員、非会員ともWeb受付(申込み)Peatixにより徴収します。

※ 昼食は、6/9(日)のみ、Web申込み時に斡旋します。また、6/8(土)のみ、学食を利用できます。

情報交換会 4,000円

日 程

【第1日】6月8日(土)

12:30 13:00 14:55 15:10 17:10 17:30 19:30

受付	自由課題研究発表 分科会I~IV	課題研究 道徳科の特質を踏まえた現代的な課題に 対する指導のあり方	情報交換会
----	---------------------	---	-------

受 付 (A-311 教室) 12時30分 ~ 13時00分

自由課題研究発表(発表25分、質疑30分)

分科会I (A-212 教室) 司会: 田沼 茂紀(國學院大學)

13:00~13:55 ① ねらいの検討 -道徳授業改善への手掛かりを求めて-
中山 真樹(大阪府高槻市立桃園小学校)

14:00~14:55 ② 子どもの心に響く道徳の授業づくり
-展開後段を工夫した授業づくりとその実践-

町田 陽子

分科会II (A-213 教室) 司会: 渡邊 満(広島文化学園大学)

13:00~13:55 ① 教職科目「道徳の理論及び指導法」における「個別最適な学び」と「協働的な学び」
-OPPシートを手がかりに-

谷口 雄一(摂南大学)

14:00~14:55 ② 道徳科の授業改善をめざした教員研修の実施と評価
伊住 継行(岡山大学)

分科会III (A-308 教室) 司会: 植田 和也(香川大学)

13:00~13:55 ① 子どものための哲学と道徳教育とのかかわり
中川 雅道(神戸大学附属中等教育学校)

14:00~14:55 ② 道徳科における「個別最適な学び」の体現を目指して
古市 剛大(岡山県赤磐市立桜が丘小学校)

分科会IV (A-310 教室) 司会: 押谷 由夫(昭和女子大学【名誉】)

13:00~13:55 ① 大学生の心理的ウェルビーイングと中学校での道徳の授業経験との関連
平 真由子(金沢工業大学)

14:00~14:55 ② 「キー・コンピテンシー」を超えるものを見つめた道徳科授業実践
~有限ながら「人格の完成とWell-beingを目指す子供達」とともに~

柴田 八重子(愛知淑徳大学【非】)

課題研究 (A-314 教室) 15 時 10 分 ~ 17 時 10 分

道徳科の特質を踏まえた現代的な課題に対する指導のあり方

— 「生命」に関する実践事例や理論研究から —

企画趣旨

学習指導要領の改訂後、現代的な課題を扱った道徳科の実践が数多く行われるようになった。一方で、道徳科の特質を踏まえて現代的な課題に関する指導を行う際、例えば次のような疑問に直面する。「道徳科で現代的な課題を扱う意義や方法は?」「自分との関わりで課題を捉えその解決に向けて考え続けようとする子どもを育むには?」

「知識の扱いをどうするか?」「道徳的価値や内容項目をどう扱うか?」「他教科等との関連をどう図るか?」「教科書に掲載されている教材の内容は…?」改めて問うと、現代的な課題を道徳科で扱うことの難しさを実感する方も多いのではないか。

そこで、今回の課題研究では、「道徳科の特質を踏まえた現代的な課題に関する指導のあり方」をテーマとし、学校現場での現状を把握した上で検討していく。現代的な課題を道徳科においてどのように扱うかを検討することで、道徳科の特質を改めて問い直すことにもつながるだろう。

その際、一定の共通理解をもって検討が行えるよう「生命」に着目する。近年、生命科学やデジタル技術の急速な発達にともない、私たちの生命に対する捉え方や考え方を揺さぶる事態が生じている。中でも、臓器移植や出生前診断、クローン技術、遺伝子検査などの、現代的な課題の視点で生命を扱う「生命倫理」は、この課題が中学校でのみ例示され、実践や教材の数が多くない実情があることから、実践の蓄積が急務である。また、動物との共生、環境と開発といった視点から、生命に対する捉え方や考え方について追究する実践も一層求められるだろう。

大阪の地で、道徳科における現代的な課題に関する指導のあり方について考えていく機会としたい。

◇ 課題研究 発表者

小学校での実践の立場から	鈴木 賢一 (愛知県弥富市立十四山東部小学校)
中学校での実践の立場から	多田 義男 (筑波大学附属中学校)
倫理学研究の立場から	児玉 聡 (京都大学)

◇ 司会・進行

柴原 弘志 (京都産業大学)

情報交流会 (生協 DiningTERRA) 17 時 30 分 ~ 19 時 30 分

【第2日】 6月9日 (日)

8:30 9:00

11:55

13:00

13:55 14:00

16:00

受付	自由課題研究発表 分科会V~IX	昼食	会員総会	シンポジウム 道徳科は、未来に対する責任に対応できるのか
----	---------------------	----	------	---------------------------------

受付 (A-311 教室) 8時30分 ~ 9時00分

自由課題研究発表 (発表25分、質疑30分)

分科会V (A-212 教室) 司会： 上地 完治 (琉球大学)

9:00~9:55 ① 構成主義に依拠する道徳授業の一考察

○丸岡 慎弥 (立命館小学校) 一色 裕亮 (立命館小学校)

10:00~10:55 ② 「道徳は教えられるか」の再検討 - 授業デザインへの試論として -

高口 涼 (静岡県富士市立東小学校)

11:00~11:55 ③ 抑圧を越え、世界の提示と教育の権威を踏まえた教育

~ フレイレ・アレントの思想から道徳授業を考える

糟谷 樹理 (宮城県仙台市立北六番丁小学校)

分科会VI (A-213 教室) 司会： 澤田 浩一 (國學院大學)

9:00~9:55 ① 震災の記憶をつなぐ・つなげる

- 「語り継ぐ会」の実践を通して見えてきた成果と課題 -

井口 知奈美 (兵庫県芦屋市立精道小学校)

10:00~10:55 ② 生命観を問う授業とは - 「ピーター2.0 サイボーグとして生きる」の実践を通して -

橋本 美砂子 (兵庫県神戸市立神戸生田中学校)

11:00~11:55 ③ いのちのつながりを認識し自己肯定感を育む教育臨床授業研究

○森永 謙二 (久留米大学【非】) 溝田 貴章 (佐賀県佐賀市立成章中学校)

上蘭 恒太郎 (長崎総合科学大学)

分科会VII (A-308 教室) 司会： 白木 みどり (金沢工業大学)

9:00~9:55 ① 演劇的手法を用いた道徳科授業の試み - 内容項目「自然愛護」の実践から -

塩家 崇生 (兵庫県伊丹市立鴻池小学校)

10:00~10:55 ② 道徳科「およげないりすさん」における「いじめ場面のロールプレイ」の試みと

研究デザイン - 生徒指導提要「いじめ未然防止教育」と道徳科の関連 -

○加藤 英樹 (愛知県名古屋市立南陵小学校) 天野 幸輔 (名古屋学院大学)

早川 裕隆 (上越教育大学大学院) 小林 溪太 (福井大学)

11:00~11:55 ③ 「いじめ未然防止教育」における「いじめ場面のロールプレイ」の試みと検討

- 道徳科「およげないりすさん」におけるアバター利用授業の実際と比較検討 -

○天野 幸輔 (名古屋学院大学) 加藤 英樹 (愛知県名古屋市立南陵小学校)

早川 裕隆 (上越教育大学大学院) 小林 溪太 (福井大学)

分科会VIII (A-310 教室) 司会： 小川 哲哉 (茨城大学)

10:00~10:55 ① 小・中学校道徳教科書の傾向分析 - 令和5年度まで使用の教科書データに基づいて -

範 蘭心 (東京学芸大学大学院【院】)

11:00~11:55 ② 教材の本質に根ざした道徳科の授業のあり方

- 『銀色のシャープペンシル』における「動き」のある道徳科の授業の実践

○磯部 一雄 (北海道札幌市立西岡北中学校) 杉中 康平 (四天王寺大学)

分科会IX (A-306 教室) 司会： 森 有希 (高知大学)

9:00～9:55 ① 子どもの「おたずね」を軸にした道徳科授業
～自己の生き方についての考えを深める授業について～

由良 健一 (兵庫県尼崎市立潮小学校)

10:00～10:55 ② 子どもの対話を軸にした道徳科授業

○加茂 祐樹 (兵庫県尼崎市立小園小学校) 由良 健一 (兵庫県尼崎市立潮小学校)

会員総会 (A-314 教室) 13時00分～13時55分

シンポジウム (A-314 教室) 14時00分～16時00分

道徳科は、未来に対する責任に対応できるのか

—次期学習指導要領を見据え、道徳科の特質を問いながら—

企画趣旨

次期学習指導要領改訂に向けた議論が進行しつつある中、道徳教育や道徳科の在り方を振り返る必要がある。道徳教育は、過去からの歴史の中で大切にされてきた道徳的諸価値を継承する役割だけでなく、未来社会を創る担い手を育成する役目も果たさなければならない。未来社会という点では、持続可能な社会を実現するために、道徳教育はいかなる役割を果たせるかという視点が欠かせない。そこで、今回のシンポジウムでは、「道徳科は、未来に対する責任に対応できるのか」をテーマとし、SDGsを事例にしなが、道徳科の在り方を考えたい。「今の道徳科は、これからの時代に対応できるのかどうか」「変えていく必要があるのなら何をどう変えていくことが求められているのか」などの問題について、道徳科の特質を問いながら議論したい。

特に、SDGsを参照軸としなが、道徳科の学習を振り返ることによって、たとえば以下の論点が浮き彫りになるだろう。道徳科において曖昧となっている認知的な側面と情緒的な側面の位置づけや、科学的な分析や根拠に基づくアプローチと道徳的な心情面に基づくアプローチの整理、道徳科において「見方・考え方」とは何かといった問題である。また、SDGsへの取組を考えたとき、道徳科と他教科との関連やカリキュラム・マネジメントの視点が不可欠となるが、そのことはかえって「道徳科の特質とは何か」を再検討することにもつながる。すなわち、道徳科の特質があるからこそ、SDGsを始めとする現代的な課題への対応が、単に「どう行動するか」に偏ることなく、我々の在り方や生き方レベルの、本来あるべきSDGsや現代的な課題への取組ができるのではないのか。

本シンポジウムでは、次期学習指導要領改訂を見据え、「道徳科の特質とは何か」を問いながら、未来社会に向けた道徳教育や道徳科の在り方を、複合的なアプローチから検討したい。

◇ シンポジスト

心理学からのアプローチ 渡辺 弥生 (法政大学)

教育学からのアプローチ 杉田 浩崇 (広島大学)

倫理学からのアプローチ 高宮 正貴 (大阪体育大学)

◇ 指定討論者

山岸 賢一郎 (福岡大学)

◇ 司会

木下 美紀 (福岡県福津市立勝浦小学校)